



座標軸を持つ

例年よりも早く始まった夏休みなのに、梅雨明けは随分と遅く感じました。そんな不安定な天候にも関わらずみんな元気に夏期講習に参加してくれています。前期では前学年の復習もしているのですが、中2の講習授業で中1の時に習った比例・反比例のところが苦手なままの人が少なからずいることが判明。特にグラフを考える時に必須の座標の考え方が身につけていない人もいます。もちろん座標というと横に x 軸、縦に y 軸の数学での使い方を習う訳で、高校生のみなさんは高校数学においても必須の考え方であることはご存知でしょう。

ところが「座標軸」を他のものに置き換えて、思考を整理したり、他の人に説明したりという使い方もあるのです。例えば横軸に甘味と塩味を取り、縦軸に濃いと薄いを取れば、どの位置に座標をとれるかでその人の好みが変わり、味付けや健康管理の参考になります。座標の見方としては右上から左回りに右下まで4つのゾーンに分けて考え、それぞれを第1象限（しょうげん）、第2象限、第3象限、第4象限と呼びます。ビジネスの世界でも横軸に実用性とデザイン性を取り、縦軸に価格の高い安いを取ると新商品の企画に関するポジショニングマップができます。どの象限に位置する商品にするかで開発の目標も定まってきます。このように社会に出てもメチャメチャ使う道具であることを認識して身につけておいてください。

ところで、勉強に取り組む時に「好きか嫌いか、簡単か難しいか」の二者択一ですぐに決めつけてしまうみなさん、一度座標に落とし込んでみてはどうでしょうか。家族の方が手伝ってあげてもいいかもしれません。どれくらい好きか嫌いか、自分にとって簡単か難しいかそれぞれ目盛りを付け、この科目のこの単元は、この座標、別の科目はこの座標と点を書いていきます。そうすれば冷静に自己分析ができて、なんでもかんでも「ムリ、ムリ！」の口癖を直せるかもしれません。この夏がチャンスですよ。